

令和8年 第10回文教厚生常任委員会会議録

令和8年9月9日 議員控室

○事 件

(1) 所管課報告事項

付託を受けた「補聴器購入助成制度を求める請願書」の審査

(2) その他

○出席委員（8名）

委員長 横 田 喜世志 君
赤 井 睦 美 君
斎 藤 實 君
倉 地 清 子 君

副委員長 関 口 正 博 君
小 西 雄 一 君
寺 田 広 樹 君
黒 島 竹 満 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（5名）

副議長 宮 本 雅 晴 君
牧 野 仁 君
議長 大久保 建 一 君

水 野 博 美 君
安 藤 辰 行 君

○出席説明員（0名）

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君
議事係長 千 代 貴 大 君

事務局次長 藤 原 悟 史 君

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（横田喜世志君） それでは、第 10 回文教厚生常任委員会を始めたいと思います。委員長挨拶は飛ばして、事件に入らせていただきます。

◎ 所管課報告事項

○委員長（横田喜世志君） 所管事務調査として付託を受けました、補聴器購入助成制度を求める請願書の審査について、を議題といたします。

○委員（赤井睦美君） 紹介した人から説明ですか。違うんですかね。

○委員（関口正博君） これ、どういうまず段取りになるかだけ、ちょっと説明して請願を受け付ける、受け付けないということなんあれば。

○委員長（横田喜世志君） 説明を。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 事務局。流れをご説明のほう申し上げます。

まず、委員会で付託審査を初日に議長から受けてございます。それで、今委員会で付託審査をこれが始まった段階で、万が一会期中に結論が出なければですね、継続調査申出書と、毎回の議員のほうは出てるんです。同じように、閉会中の所管事務継続調査の申出書っていうのを最終日に出していただいて、例えば調査期限を遅くとも、次回定例会の開会日までには、また調査させていただきということで、継続調査を行うかたちになるのかな、というかたちになります。

それで、継続調査のほうを文厚で今後進めてまいりまして、何らかの結論が出れば、次回定例会で請願を受け付けたということで議長に報告しまして、決議をとるかたちになります。

それで決議が出ましたら、その決議をしたことを町長に対して送付するとともに、請願されたご本人様にそのような結果をお知らせするかたちになります。もちろん、本日で結論が出まして、明日最終日までに何か決議ができるという結論が今日出れば、それをまいたかたちで議決することにはなるんですけれども。

ただ今回、補足申し上げますと、町長側にも同じように請願というのが出ておりますので、町長側がそれに対してどのようなリアクションをとっているのかというのは、今日この時点ではまだ分かっておりませんので、私個人として、今日ではなかなか結論が文厚として出せるかどうかというのは、ちょっと不透明なのかなっていうのは認識しておりましたので、町長側の動きを見ながらというのも 1 つの進め方なのかなというのは個人的には思っておりました。

○委員長（横田喜世志君） という事務局からの説明でございます。それについては、2 年ぐらい前ですかね、要望っていうのを文厚で取り扱ってたとおもいます。その中で結論。まあ、当時の町長としては今やらないという結論を出されて止まってしまったと。

それで、また今回請願が出されたということなんで、それを事務局言ったように、行政側にも出ているので、どう行政側が対応してくるかを見なきゃいけないものなのか、もしくは、

議会側としては、請願どおりやってくれっていう結論にしちゃうのかっていう話なんですけど。まあ、行政の出方を見るってなれば、要は継続審査になりますし。

○委員（関口正博君） 委員長、関口。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 今回の請願紹介者に、赤井議員と水野議員の名前ありますけれども、この請願書について、もし、赤井議員のほうから、この場で我々に対するこの請願書の有効性を説明できるのであれば、お願いしたいと思います。

○委員（赤井睦美君） 委員長、赤井。

○委員長（横田喜世志君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） 有効性っていう立派なものではないんですけども、やはり以前、岩村町長が一回受けたんですよ。回数関係なく、年齢 65 歳以上で片耳 3 万円を上限に補助しますというふうに受けたんですけども、それを常任委員会では、年齢制限なくして、所得制限もなくしてほしいという要望を出したんですけど、まあ、それがストップになったと。

それで今回、こういうふうに署名が 1,180 人の署名を集めて出されたわけですけど、実際いろんな調査で本当に重症な方は、別として、耳が遠くなってきたということは認知症にもつながるっていうね、そういう結果も出ているので、そうすると、健康維持を考えると、私は補助したほうがいいなという思いで、一応紹介。

そして、それとともにちょっと聞いたら、三澤委員とそれから小西委員からも補聴器じゃなくて、集音器というものとスマホをつなげて、今すごくいいものが出てると。それは 5 万程度なんですって。それは私知らなかったの、まだ調べてないんですけども、そういうのもあるよっていうことを言われたので、そういう両方を含めて考えたほうがいいなって。

やっぱり認知症につながるというの方が身近にもいてすごく痛感するので、ぜひその請願は受けたいと思います。よろしく願いいたします。

○委員長（横田喜世志君） ほか、何かありますか。

○委員（斎藤 實君） 委員長、斎藤。

○委員長（横田喜世志君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） ちょっと僕も調査っていうのかな。自分なりにちょっと周りの市町村の関係を調査して道南でもやってるところをやっていないところあるんで、その辺の調査も聞きながらですね、結論を出していきたいなと、このように思いますので、もうちょっと時間があつたほうがいいのかというふうに思います。

○委員（倉地清子君） 委員長、倉地。

○委員長（横田喜世志君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 私も時間をかけて。それこそ、この請願書では、そのタイプの集音器のことは含まれてなかったけれど、逆にそのことについて、私たちがもうちょっと理解して進められるものは進めていったらいいのかなと思うので、少し時間があるといいと思います。

○委員（関口正博君） 委員長、関口。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 僕自身は片耳に聞こえなくて、補聴器持ってるんです。補聴器自体、これでね、40万とかしたのかな。でも使ってないんですよ。なかなか。

それで、今自分は目も悪くて、ちょっと片目はぼ見えない状態なんだけど、じゃあ、どっちが不便かって言ったら目が見えないほうが不便なわけだけどね。

これ身体的なものに対して、どこかに限定してどうこうっていうことではないのかな。もちろん気の毒ではあるし、あるんだけど、それをやっちゃったらいろんな部分に広げて、いろんなものを受け付けていかなきゃならないっていうのは、ちょっと考えなきゃならないのと。

この1,100の署名って言うけれども、町民にしてみれば、10%に満たないところなんですよ。これが2,000、3,000集まったというのであれば、これはいやいや、議会として無視できないぞってなるけど、そこの部分に関しても、これまでちょっと議員やってこういう経験ってなかったから。請願出てきたってなかったよね。なかなかね。

だから、署名自体の数の当然公平性を見なきゃならないでしょうから、そこら辺の判断というものをやっぱりもうちょっとじっくり考えたほうが。請願を受け付ける場合の署名の、例えば、町民に対する割合は何%ぐらいだったのかとか、そういうのもきつと調べればいろいろ出てくると思いますので、もうちょっと時間をいただいて調べたほうがいいのかな。それは、皆さんの意見と一緒にね。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 委員長、ちょっと補足だけさせてください。事務局から。

○委員長（横田喜世志君） 事務局。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 請願の署名が何か、例えば署名数何割超えなきゃいけない請願が受け付けられると、そういうのはなくて、個人でもできますが、その代わり紹介議員が必要。それで今回、紹介議員が2名なられていますので、請願を受理するという意味では、正式にもう受け付けられた。

それで、署名の人数とかっていうのは、あくまで制度上という説明なんですけど、参考というかたちになります。例えば1人でも請願はできます。

ただし、紹介議員が1名以上必要というその条件はクリアもうされたという請願であることは、ちょっと補足だけをさせてください。すみません、失礼いたしました。

○委員（倉地清子君） ありがとうございます。

○委員（関口正博君） まあ、1人でもいいんだ。紹介議員1人いれば。

○議会事務局長（野口義人） そうです。

○委員（倉地清子君） 条件は。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 一応請願がその制度上としては、そういう。

○委員（赤井睦美君） でもやっぱり調査していきたいと思います。

○委員長（横田喜世志君） 今出たように、いろいろな補助金に限らず補足できるものが現実にある情報があるのであれば、それもうちらとしては共有して検討していかなければならないと思います。ということは、とりあえずまた継続調査の方向でいいですかね。

（「はい」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） それでは、次その他についてです。

その他の件は、決算委員会が出された資料提供の件について、審議したいと思います。

4件あります。1件目、社会福祉費のタクシー利用券における業者別利用割合の集計資料。2つ目、これも社会福祉費の寝たきり高齢者等おむつ利用券給付事業における利用者の実態。3件目、児童福祉費、子ども医療費助成事業における町内医療機関での使用割合が分かる資料。4件目、教育費。スクールバスに関する運行状況。人数、金額、回数、定期とか定期外、それから業者別となって4件出てます。

これについて、まあ、資料提供を要求された決算委員会で、文厚に提供すればいいよという話だったんですが、これを先ほどの総務委員会と同じように、提供を受けるということは、文厚委員会でもそれは検討事項にしていかなきゃならないということなんですよ。そうすると。

○委員（斎藤 實君） 資料要求するかどうかではないのかい。

○委員長（横田喜世志君） まあ、文厚としてはね。

○委員（斎藤 實君） そうやって決算委員会で振られたんで、そういうことになるんですよ。

○委員（寺田広樹君） 委員長、寺田。

○委員長（横田喜世志君） 寺田委員。

○委員（寺田広樹君） すいません。書ききれなかったんで、もう一回最初から4つすみません。ゆっくりお願いします。

○委員長（横田喜世志君） 1つ目、タクシー利用券における業者別使用割合の集計資料。

○委員（赤井睦美君） コピーしてくれるそうですよ。

○委員（寺田広樹君） あ、助かります。すいません、書ききれませんでした。

○委員（倉地清子君） いいですか。

○委員長（横田喜世志君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） この4つの資料請求の中で、子ども医療費のこの町内の利用率っていうのは、これは興味があるとかないとかじゃなくて、今後のこの政策には知ることが必要なのかなと思ってました。子ども政策のことで前お話ししたと思うので、それにつながる項目かなと思うので、ここはぜひ分析していって、今後につながる課題となるのかなと思ったんですけど。まず一点は。

○委員（赤井睦美君） なんでそれを言ったかっていうのは、文厚委員会で子育て支援政策を対応したときに、医療費助成って出したんですよ。その中の総合病院を受けた人だけの医療費助成みたいに、私たちは委員会として出したんだけど、結局、八雲町民だからどこの病院受けたってそれは助成しなきゃないっていう町の考えで、どこの病院受けても助成になるんですね。

でも、やっぱり総合病院を助けるっていう意味では、委員会としては大事だよっていう話になったので、ちょっとそれで出しました。

○委員長（横田喜世志君） 総合病院を助けるという意味でいけば、病院の特別委員会にも関係しちゃうんだけど。

○委員（赤井睦美君） その時、その当時。

○委員（関口正博君） まあ、だけど、財政健全化の調査項目の中に、子ども医療費についての項目はあるから。それは、文厚で集まったほうがいいんじゃない。

○委員（赤井睦美君） いいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） あと3つはいかがです。寝たきり高齢者おむつとか、スクールバスとか、タクシー利用券、12,000 か。

○委員（赤井睦美君） おむつは当然、今の金額で間に合っていないから、本当にある程度の補助ですよ。これを例えば削減でなしにするっていうのか、それとも足りないからもっと多くしろというのかよくわからないんですけど、私は今のままでいいかなと思っています。

○委員（関口正博君） あと、これタクシー利用券ってこれは業者の努力によるものだから、これはあえてそんなここで調べる必要ないのかなと。

○委員長（横田喜世志君） 俺もそう思う。

○委員（斎藤 實君） 私もそう思う。

○委員（倉地清子君） 知ってどうするか。

○委員（斎藤 實君） 私もタクシー利用券、個別の割合とか、それからスクールバスのあれも個別にどうこうっていうのは私は必要ないと思います。あとは、寝たきりの部分と子どもの医療費の部分は私もあったほうがいいかなと。

ただ、そこの部分もね、先ほどの答弁もあったけれども、これまでの答弁だよ。八雲町の子どもだからどこへ行ってもそれは面倒見なきゃないよ。それは、いろんなことでやっばりあるんですよ。だから、そこのところはもらっても直していけるっていうのは、やっばり難しい一面もやっばりあるんだよね。

○委員（赤井睦美君） でも、割合だけわかれば、こんなに外に出てったっていう、そこをなくしていかないとないよね。

○委員（斎藤 實君） あります。

○委員（赤井睦美君） やっばり私たちがPR しなきゃない。

○委員（関口正博君） あと、スクールバスに関しても、これはまあ、教育に関わる部分でしようけれども、当然今これだけ子ども達が減っている中で、当然人数と金額の割合なんて取れるはずがない。

でも、この部分というのは、行政として当然必要があってやっていることで。まあ、金額の適正化だけは存在するかもしれませんが、これだって、他町村でも行っていることで比較なんてもんはいくらでもできるもので、それをあえて議会でやる必要があるのかってところは、ちょっとありますよね。

人数少ないからって、ちょっと金額下げりゃいいっていうものではないから。ちょっと別問題かなって気がします。

○委員（寺田広樹君） スクールタクシーって前々からあったんですか。俺初めて聞いたんですけど。

○委員（倉地清子君） ありましたよ。

○委員（寺田広樹君） あったんですね。

○委員外議員（牧野 仁君） わらび野とか。

- 委員長（横田喜世志君） 人数少ない。
- 委員（寺田広樹君） あっち方面で。
- 委員長（横田喜世志君） 今はわらび野だけど、その前。
- 委員（赤井睦美君） 大関だったね。あ黒岩だ、黒岩。
- 委員長（横田喜世志君） 黒岩だとか。
- 委員（寺田広樹君） あ、そうなんですか。スクールタクシーね。
- 委員長（横田喜世志君） 一人とか、函館にある大型バス使わないとないから。
- 委員（赤井睦美君） もったいない。
- 委員（寺田広樹君） そうでしたか。
- 委員（関口正博君） そこだけ見れば、効率化が図られるっちゃ図られる。大きい車走らせるよりは。
- 委員（倉地清子君） そうですね。
- 委員（斎藤 實君） っていうことで、要足りると思うよ。
- 委員長（横田喜世志君） そこらへんは、三澤さんの目の前走るのが大型バスなんだべ。立岩だから。何人乗ってんのよって前から言ってるのは。
- 委員（関口正博君） これまで議会ではさ、スクールバスに一般の方々も乗せれないから、デマンドの話って始まっていった。特に田舎では、地域、地方のほうではそうやって言われたんだよね。
- ここに關して、このタクシー利用券なんていうのは、ちょっと全く違うし、スクールバスに關しても、これはここで改めてどうこうということはないのかなという気はします。
- 委員（斎藤 實君） 私もそう思います。
- 委員（赤井睦美君） 賛成です。
- 委員（関口正博君） 費用対効果、図れるもんじゃねえもん。
- 委員（赤井睦美君） そうそう。
- 委員（関口正博君） デマンドとは全く違う。まあ、デマンドなんて費用対効果にはなかなか取れないだろうけど。
- 委員（斎藤 實君） 費用対効果見たら函バスなんかなら、費用対効果なら空気乗せて走ってるわけだから。
- 委員（赤井睦美君） 本当ですね。
- 委員（関口正博君） JR なら。
- 委員（斎藤 實君） それでも走らせなきゃない理由あるわけだから。
- 委員（黒島竹満君） これは、本人必要であれば所管に行って。
- 委員（関口正博君） だから、個人で。
- 委員（黒島竹満君） 個人で調べてもらう方法でやれるようにしたほうがいいんでないの。
- 委員（赤井睦美君） 賛成。
- 委員長（横田喜世志君） だから、委員会として、寝たきりと子ども医療費、この2つを取り上げるといっていいですか。
- （「はい」という声あり）
- 委員長（横田喜世志君） おむつ。

○委員（赤井睦美君）　なくてもいいんですけど。

○委員（倉地清子君）　まあ、なくてもいいんだけど、特別、決算委員会のときにもこの質問があつて、ちょっとこの議論はされてたから、上げる予定がない話はなされてたけども。

○議長（大久保健一君）　質問の意図は何だったんだっけ。

○委員（赤井睦美君）　足りないってこと。もっと増やせてことなんですかね。

○委員（倉地清子君）　足りないってことだったけど。

○委員長（横田喜世志君）　いや、なんかまあ、補助というか、給付というか、額がさ、なんか1万円だったか。

○委員（倉地清子君）　5千円じゃない。

○委員（寺田広樹君）　5千円だった気がする。

○委員長（横田喜世志君）　要は、それじゃあ足りないでしょって話だけど、要は足りるだけ給付するんじゃないでなくて、町から出せるお手当てっていうかさ。おむつだけじゃないよって話も出たし。

○委員（倉地清子君）　まあ、これだって文厚で話する。

○委員（斎藤　實君）　これってやるんだったら、調査項目でやればいいんでないの。

○委員長（横田喜世志君）　調査項目。いやいや、これで取り上げたらさ、調査しなきゃないじゃん。

○委員（黒島竹満君）　出てきたら、なんたかた委員会やらなきゃない。

○委員長（横田喜世志君）　委員会でやらなきゃないから。

○委員（斎藤　實君）　だから、いいんだって。2つなら2つやりますって、それでいいベさ。

（何か言う声あり）

○委員（倉地清子君）　ただ、もらうだけでは。

○委員（赤井睦美君）　高齢者支援みたいな。

○議長（大久保健一君）　おむつのもらったら、これ高齢者支援全般やったほうがいいってなると思う。

○委員（赤井睦美君）　そうだよ、おむつだけだったら。

○議長（大久保健一君）　なんでおむつだけ取り上げて。

○委員（関口正博君）　まあまあ、確かに確かに。

（何か言う声あり）

○委員（赤井睦美君）　高齢者の支援みたいなかたちで現状を調べて。

○委員長（横田喜世志君）　文厚のもともとにさ。

（何か言う声あり）

○委員長（横田喜世志君）　でもさ、だから1項目を取り上げると、それだけで調査しなきゃいけないベさ。

○委員（斎藤　實君）　そしたらいらんべや。それより、委員会の中でやったほうが一番話し見えるよ。もうちょっと広い話になるんじゃないの。

○委員（赤井睦美君）　高齢者のね。

○委員（斎藤　實君）　高齢者全体的話できるんでない。

○委員（関口正博君） したら、資料請求を求めないで、この老人福祉事業すべてを議論するようなかたち。

○委員（斎藤 實君） 議論する。そのほうがいい。

○委員（赤井睦美君） いいです。

○委員（関口正博君） 資料請求は、子ども医療費の分だけ。

○委員（斎藤 實君） その中でこれも話が出てくるわけだからさ。

○委員（赤井睦美君） 高齢者福祉、いいです。

○委員（寺田広樹君） 賛成。

○委員（小西雄一君） 異議なし。

○委員（関口正博君） 子ども医療費だけ資料を求めます。

（「はい」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） それでは、4つありましたけれども、1つの子ども医療費助成事業における詳細、医療機関での使用割合が分かる資料を文教厚生常任委員会として資料請求をし、子育て云々の参考にしたいところということで進めていきたいと思います。

（「はい」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） はい。それでは、とりあえずそういうことで、この程度に今回とどめて、次回よろしく願いいたします。

〔閉会 午後 0時09分〕